

# 2008年 遺族調査 結果報告

## (勇美記念財団完了報告書より)

調査期間 2007年(平成19年)10月～2008年(平成20年)9月末

調査方法 選択方式と自由記述方式のアンケート用紙をご家族に郵送

専門職・サービスへの満足度、ケアプロセスの評価では、「非常に不満足」「少し不満足」「どちらともいえない」「少し満足」「非常に満足」のように段階的な評価を選択し、その結果を「不満足」「満足」の二群にわけて評価しました。

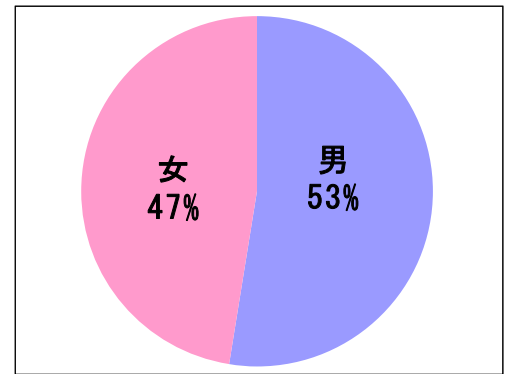
### 1. 応諾状況

	人数	%
対象者	131	
宛先不明による返送	7	
有効発送数	124	100%
返送なし	41	
返送あり	83	67%

回収率:67%

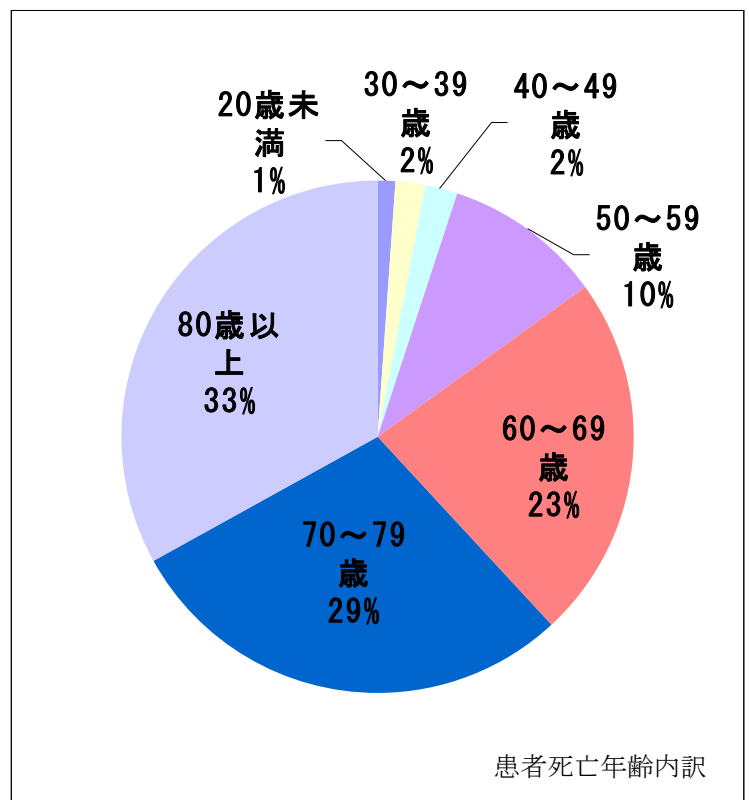
## 2. 患者背景

	人数	%
<b>◆性別</b>		
男	43	53%
女	39	47%
<b>◆死亡年齢</b>		
20歳未満	1	1%
21～29歳	0	0%
30～39歳	2	2%
40～49歳	2	2%
50～59歳	8	10%
60～69歳	19	23%
70～79歳	24	29%
80歳以上	27	33%



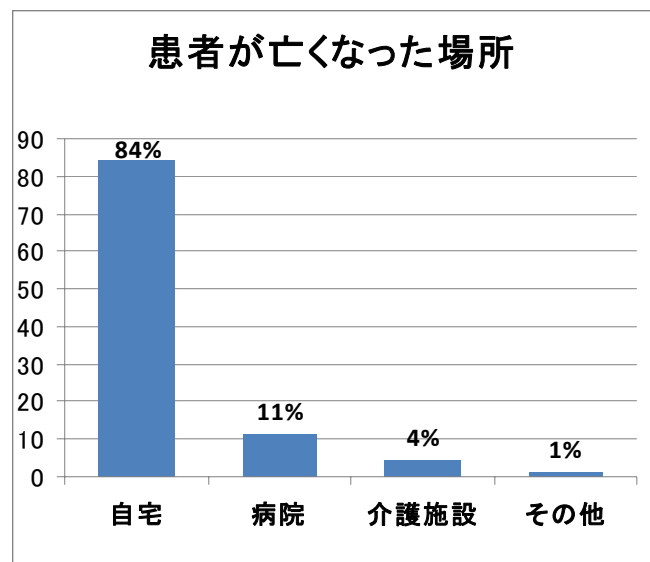
患者男女比

患者さんの男女比は、ほぼ同数であり、年代としては60歳以上の方が全体の85%を占めている。また、亡くなった場所は自宅が84%で、病院が11%、介護施設4%となっています。



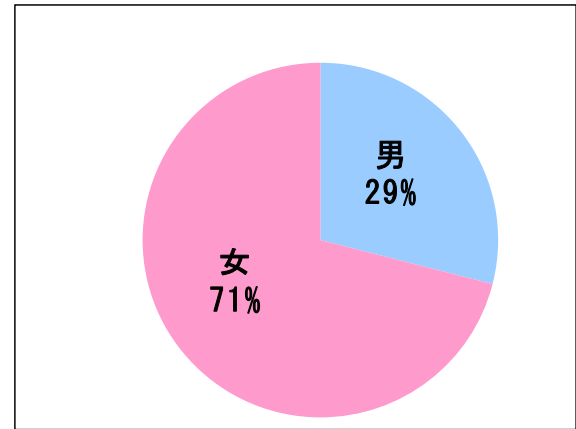
患者死亡年齢内訳

<b>◆死亡場所</b>		
自宅	69	84%
病院	9	11%
介護施設	3	4%
その他	1	1%

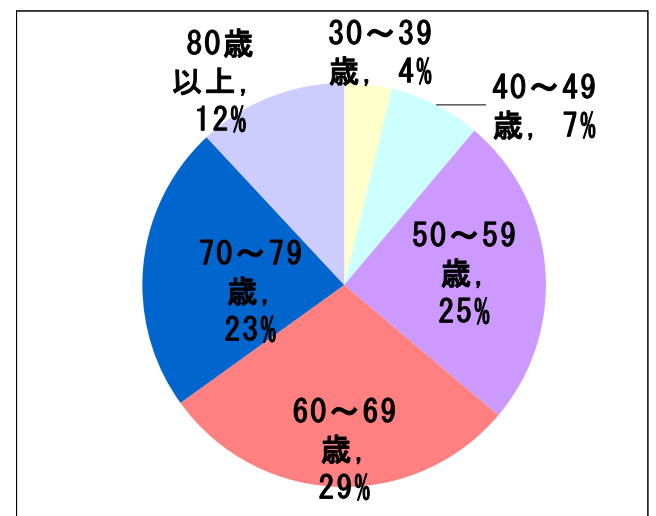


### 3. 遺族背景

	人数	%
<b>性別</b>		
男	24	29%
女	59	71%
<b>年齢</b>		
20歳未満	0	0%
21～29歳	0	0%
30～39歳	3	4%
40～49歳	6	7%
50～59歳	21	25%
60～69歳	24	29%
70～79歳	19	23%
80歳以上	10	12%



遺族男女比

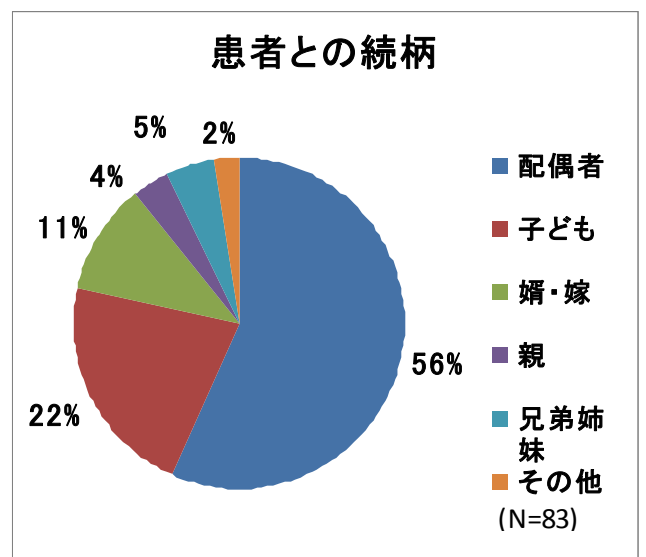


遺族年齢別内訳

ご遺族のうち70%が女性であり、50歳以上の方が全体の77%を占めています。患者との続柄では、配偶者が56%ともっとも多く、ついで22%が子どもとなっています。婿、嫁の11%を含めて考えると、33%が親の介護を行っていたことがわかりました。

この結果から、主たる介護者は、妻、娘、嫁といった女性が多いことが示唆されます。また年代的にも、老老介護となるケースも多いといえるでしょう。

	人数	%
<b>患者との続柄</b>		
配偶者	47	56%
子ども	18	22%
婿・嫁	9	11%
親	3	4%
兄弟姉妹	4	5%
その他	2	2%



#### 4.在宅療養状況

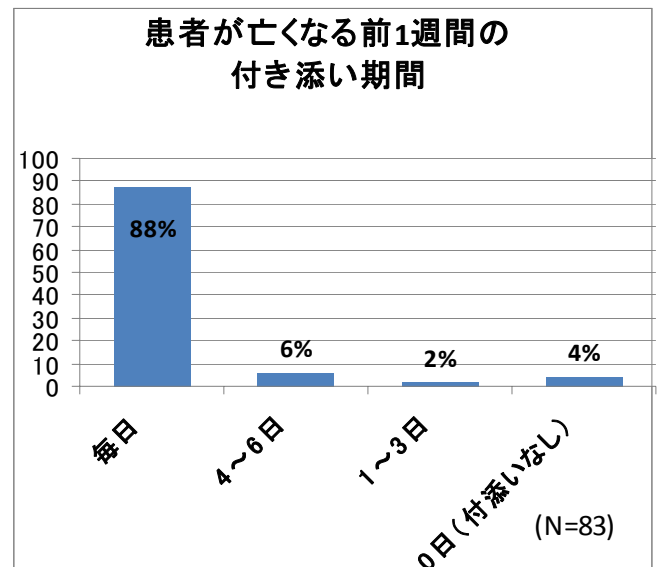
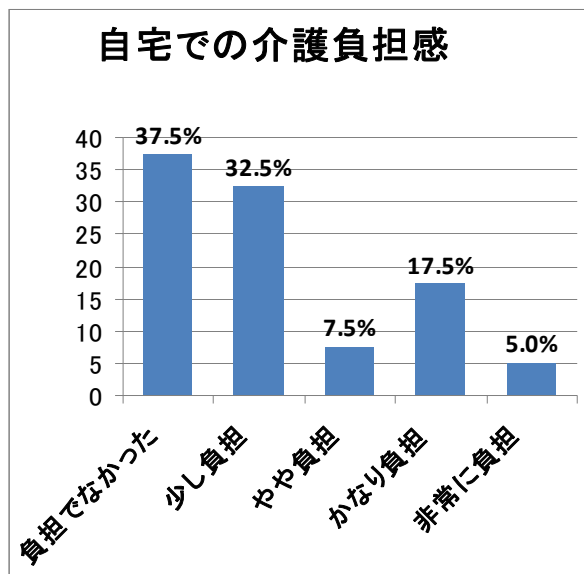
	人数	%	
<b>患者が亡くなる前1週間の付き添い頻度</b>			
毎日	73	88	
4～6日	5	6	
1～3日	2	2	
付き添っていないかった	3	4	
<b>介護負担の程度</b>			
負担でなかった	少	30	37.5%
少し負担だった		26	32.5%
やや負担だった	↑	6	7.5%
かなり負担だった	↓	14	17.5%
非常に負担だった	多	4	5.0%

次に、在宅での療養状況によれば、88%の方が亡くなる前の1週間は毎日付き添いをしているものの、37.5%の方は負担でなかったと感じていました。

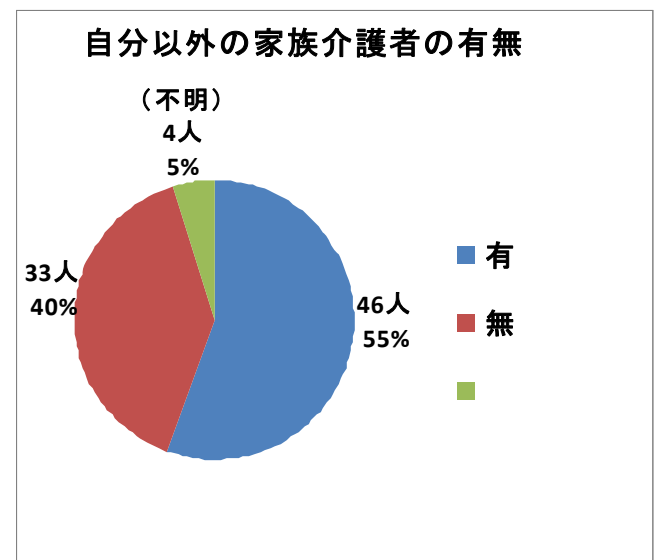
55%の方が自分以外の家族の介護者があつたとしても、介護負担をあまり感じていない理由の一つには、患者の希望を叶えたいという家族の思いが考えられます。

また、次ページにあるように、74%の方が訪問看護のサービスを受けていることも介護負担の軽減になっていたであろうと推測されます。

※欠損があるため合計人数が返送者数(83名)に一致しない項目がある



	人数	%
<b>◆自分以外に付き添いを代わってくれる人</b>		
いた	46	55%
いなかった	33	40%



#### 4. 在宅療養状況(つづき)

	人数	%
<b>◆利用したサービス</b>		
訪問看護	59	74%
訪問入浴	25	31%
訪問介護	24	30%
デイケア	9	11%
ショートステイ	7	9%
訪問服薬	7	9%
利用なし	12	15%

※各項目は回答者に対する割合を示しているまた、複数回答のため、合計が100%にはならない

#### ◆患者が亡くなる前1ヶ月にかかった医療費

1万円未満	2	2%
1万円以上5万円未満	21	27%
5万円以上10万円未満	18	23%
10万円以上20万円未満	15	19%
20万円以上	23	29%

#### ◆患者が最後を過ごした場所の適切さ

適切	適切	73	90%
やや適切		5	6%
わからない		2	3%
やや不適切		0	0%
不適切	不適切	1	1%

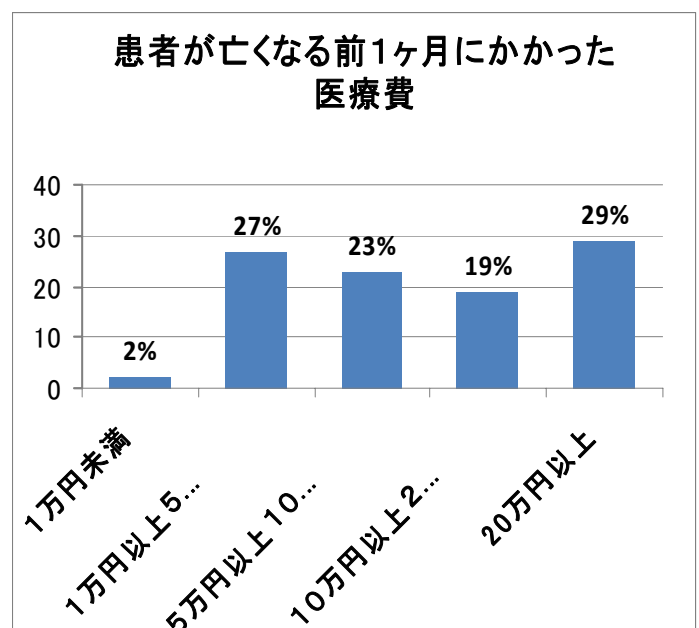
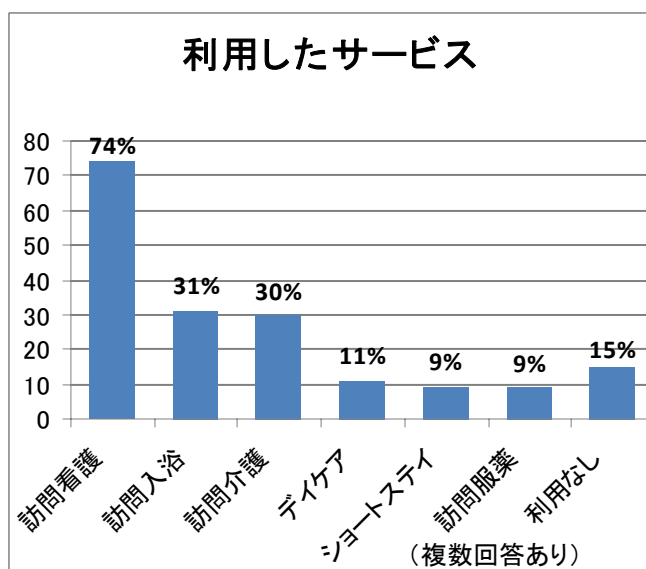
在宅療養中に利用したサービスでは訪問看護が最も多く74%であり、次に、訪問入浴、訪問介護がそれぞれ31%、30%でした。

一方、訪問服薬は9%とまだまだ少ないので、今後のサービスの利用を広めていける分野と考えられます。

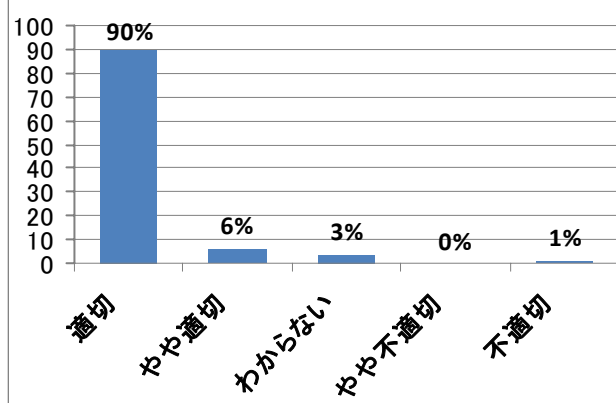
特に点滴のような医療面での援助は訪問看護師さん、入浴や清拭はヘルパーさん、薬については薬剤師さんと他職種が連携して関わることによって、介護者の負担も軽減されると思われます。

こういったサービスが利用しやすい環境、情報を整えていくことも大切でしょう。

在宅での医療費は、入院と比べ、安価と考えられているが、亡くなる前1ヶ月の医療費が10万円前後の方が多くなりました。診療内容、負担割合によって医療費は変わりますが、だいたいの目安になると考えられます。



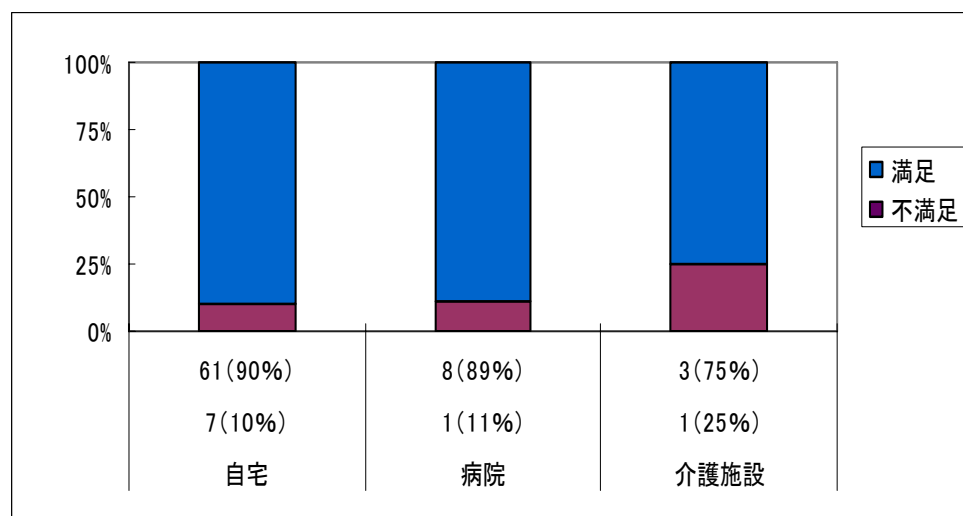
### 患者が最期を過ごした場所の適切さ



患者さんが最期を過ごした場所の適切さでは、自宅、病院、介護施設と場所を問わず、適切であったと感じている方が90%でした。

最期を過ごした場所と総合的な満足度のグラフを下記に示します。

「どこに住んでいても、どんな病気であったとしても安心して過ごせる社会」を目ざして、最期を過ごした場所が適切だったと思える支援を提供していくために、どんなサービスがあったらよいのか、どんな関わりが求められているのかが課題になります。



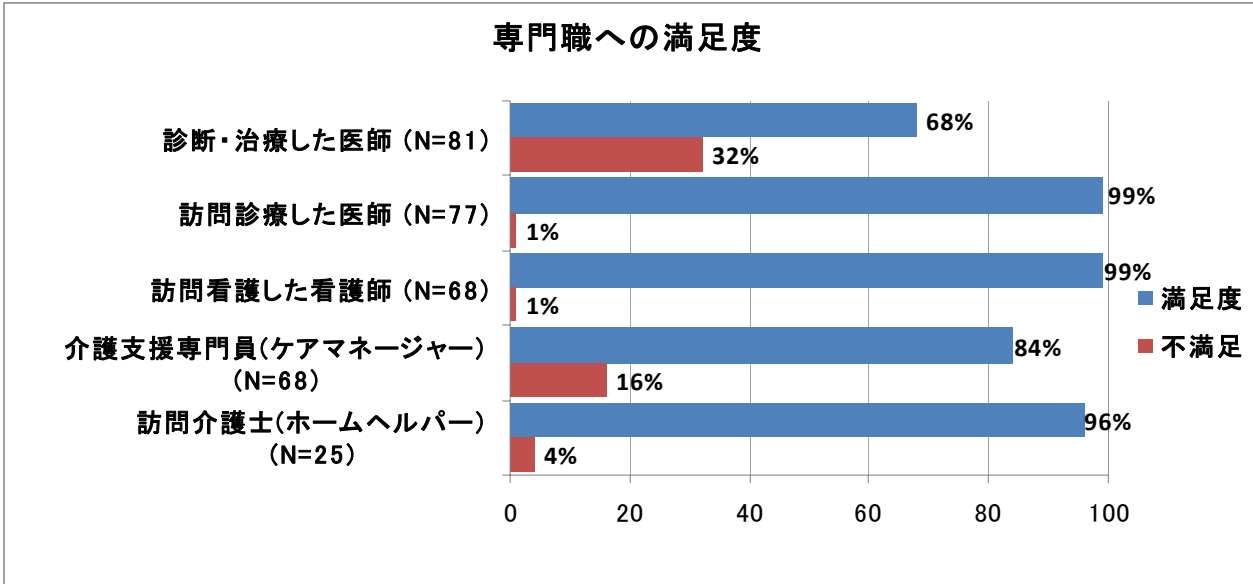
最期を過ごした場所と総合的な満足度

## 5. 専門職・サービスへの満足度

	満足		不満足	
	人数	%	人数	%
<b>◆自宅で最期を迎えた場合</b>				
診断・治療した医師	55	68%	26	32%
訪問診療した医師	76	99%	1	1%
訪問看護した看護師	67	99%	1	1%
介護支援専門員(ケアマネージャー)	57	84%	11	16%
訪問介護士(ホームヘルパー)	24	96%	1	4%
訪問入浴	21	87.5%	3	12.5%
通所サービス	9	—	0	—
<b>◆病院で最期を迎えた場合</b>				
入院中の医師	8	—	2	—
入院中の看護師	0	—	0	—
<b>◆患者の最後の過ごし方についての総合満足度</b>				
総合満足度	73	89%	9	11%

※欠損があるため合計人数が返送者数(83名)に一致しない項目がある

### 専門職への満足度

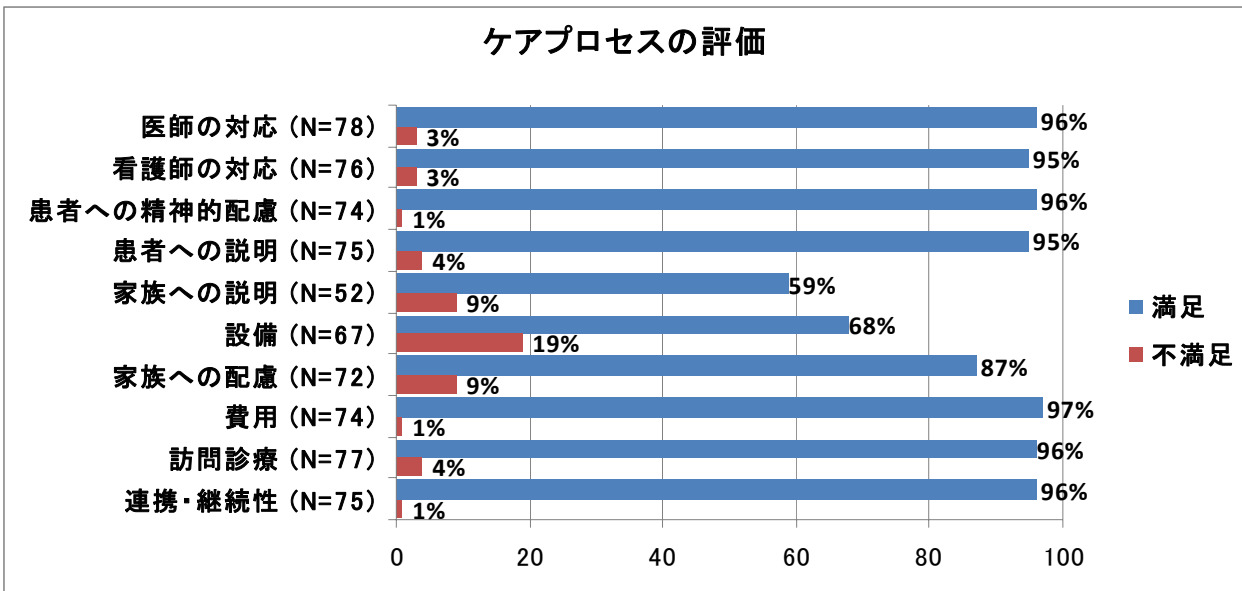


### 6. ケアプロセスの評価

	満足		不満足	
	人数	%	人数	%
医師の対応	76	96%	2	3%
看護師の対応	74	95%	2	3%
患者への精神的配慮	73	96%	1	1%
患者への説明	72	95%	3	4%
家族への説明	45	59%	7	9%
設備	52	68%	15	19%
家族への配慮	65	87%	7	9%
費用	73	97%	1	1%
訪問診療	74	96%	3	4%
連携・継続性	74	96%	1	1%

※欠損があるため合計人数が返送者数(83名)に一致しない項目がある

### ケアプロセスの評価



## 7. 遺族によるめぐみ在宅クリニックのケアプロセスの評価

改善すべきところが…		大いに ある	かなり ある	ある	少しある	ほとんど ない	全くない
医師は、患者様に将来の見通しについて 十分説明した	度数 %	0 0%	2 3%	3 4%	7 9%	20 27%	43 57%
医師は、ご家族に将来の見通しについて 十分説明した	度数 %	0 0%	1 1%	2 3%	3 4%	22 29%	48 63%
医師は患者様のつらい症状に速やかに 対処していた	度数 %	0 0%	0 0%	1 1%	0 0%	20 26%	57 73%
看護師は必要な知識や技術に熟練して いた	度数 %	0 0%	0 0%	2 3%	7 9%	23 29%	46 59%
患者様の希望がかなえられるように スタッフは努力していた	度数 %	0 0%	0 0%	1 1%	4 5%	22 29%	49 65%
自宅は使い勝手がよく、快適だった	度数 %	2 3%	3 4%	14 18%	13 17%	15 20%	29 38%
支払った費用は妥当だった	度数 %	0 0%	0 0%	1 1%	7 10%	20 27%	46 62%
必要な時に待たずに診療してもらえた	度数 %	0 0%	3 4%	3 4%	4 5%	19 26%	46 61%
医師や看護師などスタッフ同士の連携は よかった	度数 %	1 1%	0 0%	1 1%	4 5%	18 24%	53 69%
ご家族が健康を維持できるような配慮が あった	度数 %	0 0%	2 3%	2 3%	12 16%	13 18%	45 60%

遺族によるケアプロセスの評価の総合得点(平均±標準偏差、範囲 0-100) 79±11

上記評価尺度は、ホスピス緩和ケア病棟ケアに対する評価尺度 (CES) の短縮版を用いました。(Morita T, Hirai K, Sakaguchi Y, et al: Measuring the quality of structure and process in end-of-life care from the bereaved family perspective. J Pain Symptom Manage 27:492-501,2004 )

専門職・サービスへの満足度、ケアプロセスの評価においても、90%以上の高い満足度を得られたことが分かりました。しかし専門職への満足度では、診断・治療した医師の満足度が68%、ケアマネジャーの満足度が84%であったことから、今後はとくにケアマネジャーの満足度を高めるべく教育活動の展開も考えられます。また診断・治療した医師への満足度が68%にとどまっているのは、一つには、病気を知ったとき、治療が難しいと判断されたときの患者の心の痛みの深さを示していると考えられます。

さらに、ケアプロセスの評価では、設備の評価が68%、家族への説明が59%、家族への配慮が87%でした。設備の面では、トイレ、浴室、階段など在宅という生活の場での難しさと考えられます。また家族への説明、配慮の評価は、真摯に受け止め、患者さんの希望、支えを援助しつつ、家族への配慮を怠ってはならないことを再確認しました。